

# エコチル どすえかわら版 **京都**



Vol.20

エコチルどすえかわら版 はエコチル調査京都ユニットセンターと京都・長浜・木津川の参加者の皆さまを繋ぐ会報誌です

エコチル調査10周年記念号 ~vol.1~



ありがとう  
ございます

周年!





中山 健夫 (なかやま たけお)

環境省エコチル調査京都ユニットセンター / センター長  
京都大学大学院 医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野 教授

みなさん、こんにちは。京都ユニットセンターの中山健夫です。

エコチル調査は、子どもたちの成長や健康に関わるさまざまな要因を明らかにすることを目指して、平成23(2011)年～忘れることのできない東日本大震災の年～に始まり10年という大きな節目を迎えました。京都ユニットセンターでは、京都市の左京区・北区、京都府木津川市、滋賀県長浜市にお住まいの3982組の親子のみなさまにご参加いただき、調査を続けてまいりました。この場をお借りして、子どもたち、お父さん・お母さんはじめご家族のみなさまに、心より感謝を申し上げます。

これまでの「研究」は、「研究者が観察し、対象者が観察される」ことで、「客観的」であることが常に最も望ましいこととされてきました。この10年、私たち「研究者」がエコチル調査に関わって感じてきたことは、少し距離をとって観察する相手だった方々と、「(この大きな取り組みを)一緒にしている」、そして「(新しい何かを)共に創っている」という想いでした。これからの「人間」の研究では、「距離を保って、客観的である」気持ちと、もっと近づいた共感や一体感も大切にする、ある意味では相反する両方の気持ちを行ったり来たりすることが大事になってくるのでは、と感じています。

2020年からのコロナ禍は、私たちのこれまでの日常を大きく変えてきました。その中で、お母さんのお腹にいる赤ちゃん、生まれてきた子どもたちが、健やかに成長していくことができる環境、安心して子育てができる環境を守り、少しでもより良いものにしていこうとすることは、これまでも、そして、これからも変わらずに、私たち共通の目標であり、願いであるに違いありません。

さまざまな立場の方々に、これからもエコチル調査をご一緒させていただくことを、心より願い、ご挨拶とさせていただきます。

2021年6月吉日

3722人

エコチル調査にご参加中のエコチルキッズの人数

※京都・長浜・木津川3地区/2021年3月末まで



185人

詳細調査にご参加中のエコチルキッズの人数

※京都・長浜・木津川3地区/2021年3月末まで

950人

小学2年学童期検査にご参加くださったエコチルキッズの人数

※京都・長浜・木津川3地区の2021年3月末まで

一人ひとりの経験を持ち寄ることで初めて見えてくることがある……エコチル調査は、みなさまがご自身の経験を安心して持ち寄ることができる場所作りのようなものだと考えています。

「未来の子どもたちがそれぞれ健康に幸せに大きくなりますように」「子育てしやすい環境になっていますように」……調査参加へご同意くださった時にみなさまと共有させていただいた思いは、10年間のみなさまの質問票回答を通じて「データ」という形になり、着実に熟成の時を迎えつつあります。

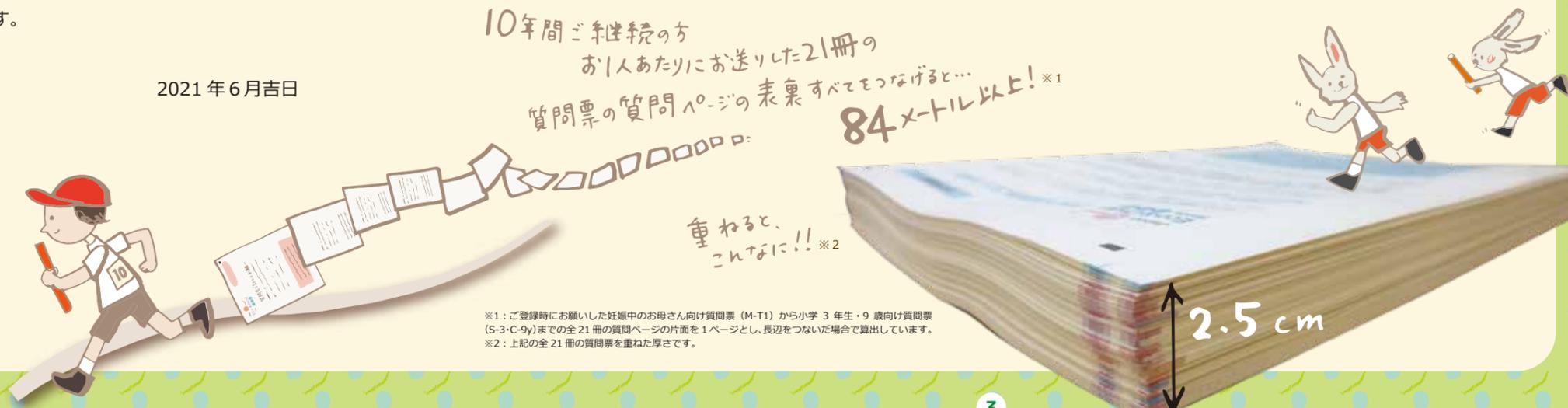
10年の間には震災やコロナ禍など、様々な困難がありましたが、今も3722人のキッズとその保護者のみなさまがエコチル調査を継続くださっています。この継続率は海外の研究者も「日本のお母さん、すごい……!」と驚嘆の声をあげるような、すばらしい数字です。子育てだけでも毎日大変な中、なんとか調査に参加を続けてくださっているみなさまに、心から感謝申し上げます。

また、詳細調査には185人、小学2年学童期検査には今までに950人のエコチルキッズが協力してくださいました。昨今のコロナ禍の中では、調査や検査日程が何度も延期になり、たいへんご不便をおかけしておりますが、みなさまのご協力に深く感謝しております。

信頼できる解析結果を出せるかどうかは、いかに多くの方に調査を継続いただけるかが鍵です。引き続き、一緒にがんばりましょう。

エコチルキッズが大きくなって子育てをする頃には、みなさまの思いは「調査で分かったこと」を通じて、タイムカプセルのようにキッズや未来の子どもたちの心に届くことと信じています。

金谷久美子 京都大学大学院 医学研究科 エコチル調査京都ユニットセンター 特定助教 / 内科医



10年間ご継続の方  
お1人あたりにお送りした21冊の  
質問票の質問10ページの表裏すべてをなげると…  
84メートル以上! ※1

重ねると、  
こんなに!! ※2

※1: ご登録時にお願した妊娠中のお母さん向け質問票 (M-T1) から小学3年生・9歳向け質問票 (S-3-C-9y) までの全21冊の質問ページの片面を1ページとし、長辺をつないだ場合で算出しています。  
※2: 上記の全21冊の質問票を重ねた厚さです。



# 京都ユニットセンター 10年のあゆみ

みなさまのご協力のおかげでエコチル調査は10周年を迎えることができました。現在、小学1年生～4年生のエコチルキッズとご家族のみなさまに調査にご協力いただいております。調査には参加者の全員にご協力いただく「全体調査」と、一部の方へお願いする「詳細調査」があります。10年間の調査のあゆみをご報告いたします。



エコチルキッズが全員小学生に!



質問票調査(全体調査)

## 詳細調査

- 訪問調査
- 医学的検査
- 精神神経発達検査

## ピックアップ 詳細調査

詳細調査は全国10万人の参加者のうち、無作為に選ばれた5000人を対象として行っており、京都ユニットセンターでは、185人のみなさまにご協力いただいております。(※1) 1歳半、3歳の調査では担当のスタッフがご家庭を訪問し、生活環境中の化学物質やハウスダストなどを調査しました。また、2歳から2年ごとに医学的検査と精神神経発達検査を行っています。(※2) 医学的検査では小児科医による診察のほか様々な計測に加え、採血にもご協力いただき、貴重なデータをいただいております。2歳、4歳の精神神経発達検査では、専門の検査者が対面による検査を行いました。今年度と来年度は小学2年生を対象とした「8歳詳細調査」が行われます。2019年度から小学2年生の多くのエコチルキッズのみなさんにご協力いただいている「学童期検査」での検査内容に加え、詳細調査では小児科医による診察、血圧測定などのほか採血を行い、学童期検査よりもさらに詳しい発達検査を行います。

		年齢							
		1歳半	2歳	3歳	4歳	6歳	8歳	10歳	12歳
お願ひする内容	訪問調査	○		○					
	医学的検査		○		○	○	○	○	○
	精神神経発達検査		○		○	○	○	○	○
	環境調査(郵送を予定)				○	○	○	○	○

今後は質問票による環境調査や、10歳、12歳での詳細調査をお願いする予定です。

このように、2年おきに検査会場まで出向いていただき、質問票のご回答からだけではわからない様々な情報を得ることにご協力いただいているみなさまに、心から感謝申し上げます。

■2021年5月現在の予定であり、変更になる場合もあります。

※1: 2021/5/31日現在 ※2: 6歳は医学的検査のみ

### 訪問調査 1歳半・3歳

担当の調査員(2名程度)がご家庭を訪問し、生活環境中の化学物質やハウスダスト等を調査します。

### 医学的検査 2.4.6.8.10.12歳

お子さんの健康状態や成長発達について、小児科医が直接診察します。(採血検査があります)

### 精神神経発達検査 2.4.6.8.10.12歳

2歳、4歳では、専門の検査者がお子さんの発達について検査しました。8歳では、コンピュータを用いた検査を行っています。

～エコチル参加者さまよりご投稿～

### 自分ではない誰かのために

詳細調査で採血を受けることになった注射嫌いの娘(当時年長)は「病気じゃないのになんで?」と怪訝そうでした。予防接種も大泣きして暴れるような子に、本当のことを伝えたら絶対に受けてくれないと思っていたのに、「これは自分のためじゃなく他の誰かを助けるためにする注射やけど、頑張れる?」と尋ねると、コックリとうなずいてくれたのです。

当日、固く目をつむり、泣くのをこらえて「頑張る、頑張る、頑張る!」と大声で自分に言い聞かせながら腕を出す娘の姿に、人の為になら頑張れるんだなあ...と優しい子に育ってくれたことを嬉しく思いました。エコチルに参加して良かったと、つくづく思った出来事です。

その後も相変わらず予防接種はごねまくりの娘ですが、あの日以来注射を受ける時には、診察室に響き渡る大声で「頑張る!頑張る!頑張る!」と自分にエールを送るのがルーティンとなりました(^\_^) ペンネーム<北の母>

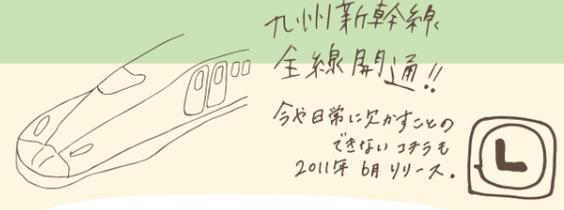


# 2011



Jリーグ初優勝!

調査が始まった10年前は、どんなことがあったのでしょうか。あのころの出来事を京都ユニットセンターのスタッフが振り返りました。



吉岡千晶 <京都地区・リサーチコーディネーター>



2011年、調べてみるといろんなことがあった1年でした。音楽はAKB48が上位5位を占め、私含め多くの方がAKBを認識した年となりました。流行ったドラマは、マルマルモリモリの「マルモのおきて」「JIN〜仁〜」松嶋菜々子さんの「家政婦のミタ」。家政婦のミタの最高視聴率は、なんと40%だったそうです！日本中のほぼ半数が観ていたということですね。ちなみに私は観ていません☆ 流行語大賞は「なでしこジャパン」。その他には「どや顔」も挙がっており、今ではお馴染みの言葉にも生まれた瞬間があったのだな〜という気持ちになります。(笑)



小林寛子 <木津川地区・リサーチコーディネーター>

初めてスマホをもたれたのは、いつ頃ですか？ 総務省のHPの情報通信白書によると、2019年のモバイル端末全体（スマホ+ガラケー）の世帯保有率は96.1%、2010年は93.2%と記載がありました。これは日本のほとんどのご家庭でモバイル端末を所有しているということです。注目していただきたいのは、その内訳です。2010年のスマートフォンの世帯保有率は9.7%。それに対しなんと2019年のその値は83.4%になりました。10年以上前から9割以上のご家庭でモバイル端末を所有し、当時はその大部分がガラケーを使っていたのに、現在はほとんどの方がスマホに変更したということになります。2008年に日本で初めてiPhone3Gが発売されました。おそらくこれが日本のスマホの始まりになるのかと思います。10年ひと昔といいますが、まさにそれです。この10年でスマホは私たちの生活にたくさんの変化をもたらしたと思います。冒頭の質問に対する私の答えですが、2012年にガラケーからスマホに変更しました。みなさまはどうでしょう？お子さまがご誕生の時はガラケーでしたか？スマホでしたか？ もちろん、携帯電話を持たないという選択肢もございます！



神田琴恵 <木津川地区・リサーチコーディネーター>

10年前の大きな出来事といえば、やはり3.11東日本大震災が頭に浮かびます。当時、私は中国の日本語学校で働いており、現地で流れるテレビニュースを連日食い入るように見ていたことを覚えています。ところで、京都にお住いの方には馴染み深いと思うのですが、清水の舞台で毎年12月に発表される「今年の漢字」。2011年の「今年の漢字」は何だったと思いますか。10年前に思いを馳せながら、その一文字を調べてみました。2011年の漢字は『絆』でした。全国から50万近くの応募があり、1位の『絆』は6万1453票の得票だったそうです。2位以下も震災関連の漢字『災』『震』『波』『助』とつづいていました。『絆』が選ばれた理由は、「2011年は国内外で多くの災害が発生し、その経験からかけがえのない人との『絆』をあらためて知った。ソーシャルメディアを通じて新たな人との『絆』が生まれ、旧知の人との『絆』も深まった。女子サッカーのワールドカップで優勝した、なでしこジャパンのチームワークの『絆』に感動し勇気づけられた。」などでした。2021年の今年は、どんな一文字になるのでしょうか。昨年から続くコロナ禍で閉塞感のある毎日ですが、今できることに一生懸命取り組み、人と人の繋がりを大切にしようと思ってきました。



渡部 基信 (わたなべ もとのぶ)

同志社大学 赤ちゃん学研究センター 副センター長  
学研都市病院小児科医、臨床心理士

「子どもの健康と環境に関する全国調査」通称エコチル調査が始まって、10年がたちました。木津川地区を統括する任務をいただき、小児科医だけでは経験できない、いろいろなことがありました。

### その1 力不足は否めない

最初のお役目は、木津川地区を担当するスタッフのみなさんからヒアリングをし、仕事をどのように分担するかを決めることでした。職業柄、1対1でお母さんとお話するのは慣れていましたが、「ワーキングウイメン←複数」と対峙するのは初めての経験でした。それぞれの思いがあり、傾聴していたら、ちっともまとまりません。会議は長引き、日は沈み夜になっていきました。もうやけくそになって言いました。「とにかく！今の体制で年度末までは、とりあえず、やっていただけませんか！」よし、きっぱり言えた！これで決まりやと思ったんだけどな。。。 「とりあえずってどういうことですか!!!」 ……会議は終わらなくなってしまいました。



当時のスタッフのみなさま 力不足で申し訳ありませんでした…

### その2 産婦人科の先生

地元の産婦人科の先生のご協力無しではこのプロジェクトは進みませんでした。かなり煩雑で時間もかかる調査にご協力いただきました産婦人科の先生には、この場を借りましてお礼を申し上げます。仲良くなるうちに普段は聞けない楽しいお話も聞かせていただきました。一番強烈なのはE先生の「学生時代自転車に乗っていて、近鉄電車にぶつかって、意識が無くなり、目覚めたところ、運命の人にめぐり逢った。」というエピソードです。



### その3 ウサギさんとの掛け合い

大勢の参加者の皆さんに持続的に協力していただくために、エコチルフェスタを開催し、音楽や人形劇など楽しいイベントを行ってきました。その舞台上で、着ぐるみのウサギさんと掛け合いをしたこと(させられたこと)があります。日頃、頑張っているスタッフからの頼み事、断る余地などありません(汗) 「ね〜先生、エコチル調査ってなあに？」「ウサギ君、子どもたちの未来のための調査なんだ」演技指導の効果もむなしく、緊張し、ウサギさん相手に、ただただまじめに答えるだけ… かなりシニール…客席の反応…正直つらかった。でも、どんな状況にも動じない自信がちょっとついたかな。



### その4 小西行郎先生

2019年9月5日、同志社大学赤ちゃん学研究センターのセンター長で、そして「赤ちゃん学」の創始者である小西行郎先生が逝去されました。先生はエコチル調査参加者のみなさんの熱意に応えたいという思いで、時に手厳しく信念を持って、調査内容について会議で意見を戦わせ、常に京都のエコチル調査をリードしてくださいました。調査開始以来、我々は先生の敷いてくださったレールの上を走るだけでよかったのですが、今は自分たちで道を切り開いていかなければなりません。国難ともいえる新型コロナウイルス感染症の流行の中、小西先生ならどうお考えになるだろう、と思うことがあります。10年の節目にあたり、これからのエコチル調査についても、改めて考えていかなければと思います。



飯尾都美  
＜木津川地区・リサーチコーディネーター＞



当時はまだ妊婦だったみなさまに、2011年4月から京都山城総合医療センターで、お声がけをさせていただきました。その時から10年の年月が過ぎ、あの時、お母さまのおなかの中にいたエコキルベイビーが、最年長では10歳のエコキルキッズに成長されたと思うと、感慨深いものがあります。「エコキル調査ですが、少しお時間いただいてもいいですか？」と、受付でお声がけをし、説明を聞いていただいたことに、今でも感謝しています。初めて懐妊されて、喜びに目がキラキラ輝いている方、何人目かのお子様で、堂々とされている方。いろいろな方とお話できて、嬉しかったです。一番嬉しかったことは、お子様が誕生された後、お名前をお伺いに行った時に、エコキルベイビーに会えたことです。この子どもたちが、更にその子どもたちが暮らす世の中が、エコキル調査によって、より良い環境になればと願わずにはられませんでした。そして、今。学童期検査や詳細調査で、エコキルキッズ達とお会いできて、とても楽しい時間をいただいております。検査が終わった後、笑顔で手を振ってくれるエコキルキッズ達！これからもどうぞよろしくお願いいたします！

高岸由紀子  
＜長浜地区・リサーチコーディネーター＞



私の最初のお仕事は、市役所に母子手帳を取りに来られたお母様にエコキル調査のご案内をすることでした。その中にご参加して下さった皆さまにその後お会いできる機会というのは、当時は主にイベントのみ。私はエコキルフェスタで受付を担当することが多く、その時にたくさんの参加者様とお会いできたのですが、「あれ…？もしかして〇〇ちゃん？」と、同級生とバツタリ再会することはもちろん、ご主人が同級生で「あの注射で泣いていた〇〇くんがパパになっているのか～」と親戚のような目線で懐かしむなどなど、小中高の「ひとり同窓会祭り」となりました。それくらい男女問わずエコキル調査にご参加中の同級生がたくさんいたのですが、大人になってからの再会が同窓会ではなく、『未来の子どもたちの為に』という想いが引き合わせてくれたんだなと思うと、なんだか嬉しくなった思い出があります。お子さんが成長するにつれて、その都度その都度忙しさや環境の変化も出てきて、一つのことをずっと続けていくのは簡単なことでは無いと思います。この調査が私と同級生を引き合わせてくれたように、私自身も皆さまの想いと未来の子どもたちを繋げられるよう尽力してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

上野由紀  
＜京都地区・リサーチコーディネーター＞



区役所でのリクルートは、母子手帳を取りに来られた妊婦さんが対象でした。身重でしんどい中、つわりで大変な中、保健師さんの話の後、さらにお時間をさいて、当時まだ知られていない謎の「エコキル」ブースまで、案内されるがまま足を運んでくださったことと思います。お母さんの代わりにご主人やおばあちゃんが来られたこともありました。熱心に話を聞いてくださった方、途中で気分が悪くなって帰られた方、お急ぎで全くお話できなかった方…。今こうしてエコキルが10周年を迎えられるのも、あの時のお一人お一人との出会い、そしてご参加くださったみなさまのこれまでのご協力があったからこそと深く感謝しています。お子さんの誕生と成長、みなさまとのつながりは私たちの何よりの喜びです。これからも一緒に歩ませていただけたら、こんなに嬉しいことはありません。

産婦人科でエコキル業務をしていた時、廊下を歩いていると、白衣ならぬ青衣？を着ていたせいか、お医者さんと間違えられました。入院中の妊婦さんのご主人に「すいませんっ！来て下さいっ！」と、病室に呼ばれたことも…。私はお医者さんじゃないよ～ひよえ～



久保和美  
＜長浜地区・リサーチコーディネーター＞



私は、京都ユニットセンターの最初のスタッフの一員として、その年の3月に初めて全国のユニットセンターのスタッフが東京に集まって開催される会議に参加しました。その日は2011年3月11日。3月というのに、とても寒い日でした。2時過ぎくらいに会議のある東京のビルに到着すると、私と同じテーブル席には宮城ユニットセンターのスタッフの方がいらっしまったので、メールアドレスの交換をしたり交流を深めて時間を過ごしていました。自己紹介から始まった会議、もう少ししたら私たちのテーブルに順番が回ってくるかな…と思っていたところ、めまいがしてきました。座っているのにどうして…こんな大事な会議の時にめまいがするなんて…いや、めまいじゃない。何か揺れている。そうこうしているうちにどんどん揺れはひどくなり、「これは地震！」と、動揺しながら急いでビルの外へ避難すると、そのまま会議は中止・解散と伝えられました。駅のモニター画面には東北の地震状況や津波の画像が流れていましたが、まるで映画の1シーンのようでした。あれから10年が過ぎました。振り返ると、あっという間に過ぎたような、そんな気がします。確実に年月は過ぎていきます。エコキルキッズのいちばん大きなお子さんは4年生になりました。現在、私は詳細調査や小学校2年生になられたお子さんの学童期検査の担当として検査に携わり、お手伝いをさせていただいております。エコキル調査が無事終了できる日まであともう少し、みなさまのお力をお借りできればと思います。みなさま、引き続きどうぞご協力のほど、よろしくお願いいたします。

奥田美千代  
＜京都地区・リサーチコーディネーター＞



私は調査が始まってしばらくしてから携わらせていただいています。当初は保健センターで、母子手帳を取りに来られる妊婦さんとそのご家族にエコキル調査参加へのお声がけをさせていただいておりました。多くの方々とお話をしましたが、中には初対面にもかかわらず昔からの友人のように意気投合し、話が弾んだ方、ご自身の身の上話を打ち明けてくださり思わず涙してしまったことなど、思い出深い出逢いがありました。この貴重な経験が、間違いなく今の私の仕事を進める上での核となっています。ぶれそうになった時、目標を見失いそうになった時、あの時保健センターで多くの妊婦さんとご家族に向けて、何度も何度も自分が発した言葉「未来の子どもたちのために」この言葉を思いだし、自分を修正してきました。今後もこの言葉を胸に、みなさんと一緒にエコキル調査を歩んで行けたら、と思います。これからもどうぞお付き合いください。よろしくお願いいたします。

小西かおり  
＜木津川地区・リサーチコーディネーター＞



13年なんて長い調査に協力していただけるかな…10年前、市役所の窓口でみなさんにエコキル調査の説明をしながら、心の中は不安でいっぱいでした。「子どもの成長に影響を与える環境要因を明らかにして、子どもが健やかに育つ環境、安心して子育てができる環境を整える。」この調査の目的を研修でしっかり学んだはずなのに、アレルギーで悩んだ自身の子育てを顧みて、この調査の大切さを感じていたはずなのに…。どこか遠慮気味に話してしまう、みなさんのお母さんぐらいの新米スタッフの私をまるで勇気づけるかのように、たくさんの方が「協力します」と応えてくださいました。そして、今もその多くの方が調査を続けてくださっていること、これはみなさんがこの調査の意義を理解してくださっていた証。不安を抱えていた新米は、いつの間にか最古参。みなさんの尊い継続の力を支えにみなさんと共に歩んだ10年が未来の子どもたちの素晴らしい過去になるように、これからも努めたいと思います。



エコチルキッズの  
みなさんへ  
ごしそ  
あなたの「リクエスト」  
おしえてくれて、  
ありがとうございます。



おくってくれる  
質問票の「ごたえの中には、  
これからの「ぐどもたちが  
もっと、もっと  
くらしやすくなる未来を  
つくるためのイベントが  
たくさん たくわん  
つまっています。

エコチル調査を  
つづけてくれて、  
ありがとうございます。



キャラクターのご紹介

**エコさん** ひとりむすこの「ゆう」といっしょにエコチル調査に参加しています。左京区に住んでいるので、京大オフィスに遊びに行ったり、エコチルの先生にインタビューしたり、あちこちに顔を出しています! でも、まだ長浜には行ったことがないので、今年に行ってみたいなあ~  
 すきな食べ物: おすし  
 すきなこと: ネットショッピング

**2年生にゆーくん**  
 はくは2013年9月1日生まれのエコチルキッズです!  
 今年は学童期検査に参加します。  
 いったい、どんな検査なのかな?  
 今からワクワクしています。  
 すきな食べ物: アイスクリーム  
 すきなこと: ゲーム

**うさP** ボクは遠い未来から来たロボットだよ。過去の様子を探るために、うさみちゃんの子孫がボクを送りこんだのさ。地上は住みにくくなってしまったけれど、ボクたちは地下都市を作って、くらしているんだ。  
 すきな食べ物: ニンジン  
 すきなこと: 水泳

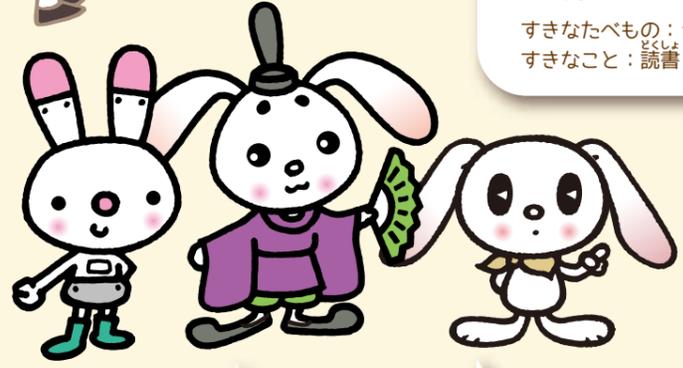
こんにちは! 10周年を記念して、京都ユニットセンターのオリジナルキャラクターたちを紹介いたします。グッズになったり、かわら版でみんなを案内してきたよ。  
 あなたが見たことがあるキャラクターは、どれかな?  
 名前を知っているキャラクターは、いるかな?

おっかれさまですー

どあ、もも

**うさみ**  
 わたしは京都ユニットセンターのメインキャラクター。キッズのみなさんが生まれる前からスタッフとしてはたらいています。みなさんといっしょに10周年をむかえることができ、うれしいな。  
 すきな食べ物: ラーメン  
 すきなこと: 読書・料理

元祖



**うさまろ** わしはうさみの先祖なんじゃ。平安時代からやってきたぞ。エコチル省の大臣なのだ~。ある日、京都の東大路を歩いていると、牛のフンにつまづいてしまい、現代にタイムスリップしてしまったんじゃ~!  
 すきな食べ物: カレー、日本酒  
 すきなこと: 自然観察、歌詠み

**コウサ** わたしは遠い砂漠からやってきたの。黄砂研究のお助けウーマンよ。砂嵐になると、はな水が出るようになったの。これってアレルギー? この砂が遠い日本にも飛んでいって人々の健康に影響しているらしいの。そのヒミツを探るために、やってきたの。  
 すきな食べ物: ロールケーキ  
 すきなこと: 神社やお寺めぐり

うさみとうさPは、何を話しているのかな?  
 セリフを入れてマンガをつくってね。できあがったら撮影して、お家の人と一緒にエコチル調査京都ユニットセンターのHP「それゆけ! エコチルキッズ」に投稿してね。キャラ設定もストーリーもあなた次第! ご投稿、おまちしてます!



それゆけ! エコチルキッズ  
 ご投稿はこちらから!  
<https://ecochil-kyoto.jp/ecochilkids/>

保護者の皆さまへ  
 京都ユニットセンターのホームページ内、それゆけ! エコチルキッズは、調査にご参加されているみなさまや、エコチルキッズ、スタッフの投稿コーナーです。日々の写真やイラスト、コメントのご投稿をお待ちしています!  
 ※HP 記載の注意事項をよくご確認ください。保護者の方と一緒にご投稿ください。HPに掲載させていただく場合は京都ユニットセンターより改めてご連絡いたします。



ありがとう  
 10周年

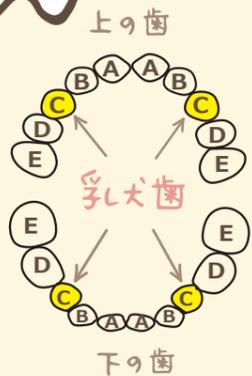
<https://ecochil-kyoto.jp/anniversary10/>

↑期間限定! 10周年記念ページだよ。スタッフが作った4コママンガも紹介しています!





# 乳歯調査のご紹介



エコチル調査では、お子さまに抜けた乳歯2本をご提供いただく「乳歯調査」を行っております。ご提供いただいた乳歯はお返しできませんが、分析し、研究のために大切に使用させていただきます。抜けた乳歯を調べることで、お母さんのおなかの中にとりこまれたときから生後数ヶ月頃までのそれぞれの時期に取り込んだ化学物質の状況を調べることができます。まるで地層のようですね。

全国のエコチル調査では、現在38,000名弱の協力が得られています。これは、ノルウェーの4万人に並ぶ、世界的にも稀な規模です。協力者の数が多いほど、より詳細で信頼できる分析ができます。みなさま、どうかご協力のほど、よろしくお願いいたします。

## 1 調査の流れ

- 1 **ご協力いただける方下記をプレゼント!**  
※歯が抜けたら小学4年生まで保管してください。  
・乳歯保管ケース  
・乳歯ブック
- 2 **小学4年生になったらお届けします**  
・乳歯回収チューブ  
・調査票  
・着払い伝票付き返送用封筒
- 3 **着払いにてご返送ください**  
・乳歯2本  
・調査票
- 4 **センターに乳歯到着後、数か月程度で謝礼(1000円)をお送りします。ご協力ありがとうございました。**



## 京都ユニットセンター オリジナル企画 犬歯の模型プレゼント

※永久歯の模型です

金谷久美子 (かなたに くみこ)

京都大学大学院医学研究科 エコチル調査京都ユニットセンター 特定助教 / 内科医

エコチルキッズのみなさん。あなたの大切な歯をご提供いただき、ありがとうございます。乳歯調査に協力してくれるみなさんの中には、抜けた歯をコレクションしている人もいますかもしれないですね。京都ユニットセンターでは、ご希望の方に「犬歯(永久歯)の模型」をプレゼントします。

調査のために送ってくださった歯の代わりに、あなたの歯のコレクションケースに入れてね! え? 犬歯以外の歯をご希望?? もちろん受付しています! あなたの気持ちをメールで私に教えてね!

- ・4年生以降にお届けする回収チューブにて乳歯をご提供ください。
- ・数か月後に謝礼と共に改めて「犬歯の模型プレゼント」をご案内するお手紙をお送りします。
- ・歯の模型をご希望の方は**お手紙**に記載の「犬歯の模型プレゼント」専用アドレスまでお申込みください。
- ★プレゼントする模型は**ご提供いただいた乳歯のレプリカではありません。**(永久歯の模型です)



インプラント用のリアルな大人の歯の模型!

### 乳歯調査紹介動画



乳歯調査の概要を2分でご紹介します。

### 乳歯調査ブック



乳歯調査にご協力くださる方にお届けする「乳歯ブック」の内容をどなたでもご覧いただけます。

【制作・著作】国立環境研究所エコチル調査コアセンター

# お知らせ

## エコチルフェスタについて

例年みなさまにご好評をいただいております「～質問票返送ありがとう～エコチルフェスタ」の実施につきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から検討を重ねてまいりましたが、今年度も開催を見送ることになりました。楽しみにお待ちしております。みなさまには、心よりお詫び申し上げます。防疫上やむを得ない判断と、ご了承いただけますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 質問票送付封筒リニューアル

2020年秋から、みなさまに質問票をお届けする封筒の素材やデザインを少しずつリニューアルしています。新しい封筒は封筒の端を手でちぎってひっぱると、ハサミを使わず簡単に開封することができます。エコの観点より現在使用中の封筒を全て使い切った後、順次リニューアルを進めています。これからも質問票のご返送を、どうぞよろしくお願いいたします。



## 質問票返送キャンペーン

詳しくはHPをご覧ください

対象の4つの質問票を全てご提出くださった方に感謝をこめてプレゼントをお贈りしています。8歳のキャンペーンからは、さらにお手軽にチャレンジしやすく、たった1冊でもプレゼントの対象になりました!



- 6歳: オリジナルトートバッグ  
対象: 4つの質問票 (4歳半、5歳、5歳半、6歳)
- 8歳: ポンキー8色セット  
対象: 8歳質問票 1冊のみ
- 9歳: 消せる色えんぴつ5色セット  
対象: 9歳質問票 1冊のみ
- 10歳: シャープペン&エコノート  
対象: 10歳質問票 1冊のみ

いろんなものに書ける!



メルマガに登録しませんか?  
[ecochil-kyoto@wadm.jp](mailto:ecochil-kyoto@wadm.jp)

毎月2回程度、京都ユニットセンターよりお送りするメルマガ会員になりませんか。医師や専門家によるコラム「子育て情報」と、エコチルスタッフによるコラム「ほっとひと息」をお届けしています。新規ご登録の方、アドレス変更のため再登録をご希望の方は空メールを送信してください。氏名のご登録は不要です。次回の配信よりお届けします。

## 変更はありませんか?

住所や電話番号などが変更になった場合、お手持ちの「登録内容変更届」にご記入いただき、質問票などと一緒にご返送ください。または、京都ユニットセンター(木津川地区の方は同志社大学サブユニットセンター TEL: 0774-65-6066)までご連絡ください。

## 全国 エコチル調査コールセンター

フリーダイヤル・年中無休 9:00~22:00

0120-53-5252

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止・変更の場合があります。ホームページにて事前にご確認ください。

全国共通のエコチル調査コールセンターでは、調査についてのお問い合わせや、育児相談を承っています。看護師、保健師、栄養士など実務経験豊かなスタッフが親身になって対応いたします。



新型コロナウイルス感染症拡大による様々な状況の中で調査にご協力くださっているみなさまに、心より感謝を申し上げます。ホームページに下記のバナーを設置し、調査の最新情報をお知らせしております。ご確認の上、ご不明な点がございましたらお気軽にお問い合わせください。



<https://ecochil-kyoto.jp/coronavirus2021>



「乳歯調査のご案内」チラシに詳しい内容を掲載しています。乳歯調査には今からでも参加できますので、一度は不参加と表明された方、チラシがお手元に無い方も、どうぞお気軽にお問い合わせください。乳歯調査にご協力いただけない場合でも、これまで通りエコチル調査をご継続いただけます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



丹羽 房子 (にわ ふさこ)

京都大学大学院医学研究科  
エコチル調査京都ユニットセンター  
特定准教授 / 小児科医

「エコチルどすえかわら版～10周年記念号～」は、みなさまいかがでしたか？私自身はエコチル調査に携わってまだ1年と少しの新米ですが、10年前のユニットセンター立ち上げの時から関わってこられたスタッフの熱い思いをひしひしと感じました。参加者のみなさまも7～10年前に妊婦さんだった頃からの様々な出来事を懐かしく思い出されたのではないのでしょうか。

この誌面を借りて、僭越ながら私からこれまでお世話になった先生方に感謝の念を込めて京都ユニットセンターの歩みを振り返りたいと思います。

京都ユニットセンターは、元京都大学産婦人科教授の小西郁生（こにし いくお）先生が初代センター長、また元同志社大学赤ちゃん学研究センター教授の小西行郎（こにし ゆくお）先生が副センター長という“ダブル小西先生”を筆頭に設立されました。その後、2016年のリオデジャネイロオリンピックの年に、元京都大学小児科教授の平家俊男先生が2代目のセンター長を担われ、そして翌2017年には京都大学健康情報学教授の中山健夫先生が3代目のセンター長を引き継がれて現在に至っています。

ユニットセンターの実務は、呉東進先生（小児科医）、佐藤恵子先生（ライフサイエンス/医療管理学、医療系社会学）、江川美保先生（産婦人科医）、高橋由光先生（健康情報学）、八角玲子先生（小児科医）など多くの先生方に支えていただきました。そして、金谷久美子先生（内科医/公衆衛生学）、平林今日子先生（社会学）はじめ多くの研究者の先生方が研究に勤しまれ、みなさまもご存知のように既に複数の研究成果を世に発出されています。

10年の間にはスタッフの入れ替わりも複数あり、副センター長は同志社大学赤ちゃん学研究センター教授の板倉昭二先生が、そして京都地区の小児科医は丹羽がバトンを引き継いでいますが、木津川では渡部基信先生が今もなお活躍されています。また、立ち上げの時からずっと関わるリサーチコーディネーターも多く、昔話によく花が咲いています。

もう10年、いやまだ10年、エコチル調査は、まだまだ続きます。参加者のみなさまの思いを受けとめて、皆が安心して暮らせる環境作りに役立てられるよう、これからも一緒に歩いていければ嬉しいです。

みつけた！



Eco & Child Kyoto  
環境省エコチル調査  
京都ユニットセンター

発行 京都大学大学院医学研究科エコチル調査京都ユニットセンター  
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53 分子生物実験研究棟117号室

<https://ecochil-kyoto.jp/>  
mail: info@ecochil-kyoto.jp  
Tel: 075-366-7400 (平日 9:00～17:00)

0120-858508

R70

VEGETABLE OIL INK



令和3年7月1日 発行

古紙パルプ配合率70%再生紙を使用